

日本放射線影響学会
(2023年11月6日-8日)

日本保健物理学会
(11月9日-10日)

会場：グランドニッコー東京 台場
ICRP2023国際シンポジウム 併催

報 告

瀬川 嘉之 (高木学校、
市民科学研究室・低線量被曝研究会)

令和5年度第44回原子力規制委員会

資料5 ICRP2023シンポジウム開催の報告

11月15日

ICRP の次期主勧告の発行に向けた本格的な議論が開始された。
Building Blocks と呼ばれる、将来の放射線防護体系を構成する主要なテーマについて議論する18のセッションにおいて105件の口頭発表が行われ、277件のポスター発表が行われた。59ヶ国より700名以上（うち、国内からは258名）の参加があった。

原子力規制委員会からは山中委員長がシンポジウムの開会にあたって歓迎の挨拶を行い、伴委員がセッション14 (**Justification**：正当化)の共同座長を務めた。

次回の放射線防護体系に関する第8回国際シンポジウムは、**2025**年に**UAE**で開催される予定である。

放射線安全規制研究戦略的推進事業（放射線防護対策費補助金）
募集要領 5000万円を上限

日本放射線影響学会 第 66 回大会

1日目: 11月6日

SY1 環境レベルのトリチウム生物影響研究を目指した新展開

SY3 **ICRP2023 satellite symposium:** 低線量・低線量率

放射線の研究：さらなる展開

2日目: 11月7日

OS4 DNA損傷・修復 ヒストン、DNA グリコシラーゼ、スプライシング因子

3日目: 11月8日

WS4 放射線発がんのメカニズムを考える：間質細胞の役割

SY5 紫外線誘発DNA 損傷の認識・修復機構の新たな展開

日本放射線影響学会 第 66 回大会 2日目: 11月7日 OS5
放射線疫学と環境影響 座長: 保田 浩志 (広島大)

OS5-1 原爆被爆者における放射線、腺腫ポリープおよび直腸癌発生率の関係

三角 宗近、杉山 裕美 放射線影響研究所

OS5-2 日本核施設労働者の職業被曝による超過死亡数

永井 宏幸 NPO 法人市民科学研究室

OS5-3 福島原発事故による被ばく線量の推定に使用されたUNSCEAR

2020/2021報告書には、100 以上の問題点が見られる

本行 忠志 大阪大学大学医学部放射線生物学

OS5-4 UNSCEAR2020/2021 福島報告書の批判的検討

濱岡 豊 慶応大学

OS5-5 海洋生態系における福島第一原子力発電所由来放射性セシウムの移行
遷移状態における放射生態学的挙動 立田 穰 電力中央研究所 他

日本放射線影響学会 第 66 回大会

2日目 11月7日 Educational Session

放射線に関する正しい知識と面白さ・重要さを未来に伝える

松本義久 東京工業大学 座長：田内広（茨城大）宇佐美徳子（高エネ研）

- **2011**年以来、福島県郡山市を中心に小中学校での放射線科学教育活動、「放射線セミナー」を約**130**回
- 当初は放射線による健康影響に対する不安の払拭や軽減が目的であったが、放射線や科学全般への興味、関心を高めることに
- 郡山市教育研修センター、南会津中学教師、セミナー講師担当者が感想
- **DNA**の二本鎖を蛍光顕微鏡で観察
- 周辺の放射線や放射能の測定はしていない。

日本保健物理学会 第 56 回大会

1日目: 11月9日

招待講演1 放射線関連量について気になる点

小田啓二 (電子科学研究所) 座長: 佐々木道也 (電中研 大会長)

国際対応セッション RBE、線質係数、及び放射線加重係数

-これまでの評価と今後の改訂 佐藤達彦 座長: 藤田博喜 (原子力機構)

2日目: 11月10日

2B1、2 放射線影響・リスク解析、防護理論1、2

2A3、4 福島第一原子力発電所事故影響、廃止措置対応1、2

2B5 放射線廃棄物、リスクコミュニケーション

放射性廃棄物の管理・処分に係る人文・社会科学的視点からの考察

保田浩志 (広島大)

日本保健物理学会第 56 回大会 2日目 11月10日 招待講演 2

ICRP2007年勧告策定時前後を振り返って

佐々木康人（湘南鎌倉総合病院湘南先端医学研究所）

座長：杉浦紳之（千代田テクノル 学会会長）

- 基本、思い出話。Radiological Protection, Stakeholder, a few mSv
- 質疑では、甲斐氏が佐々木氏を「防護」するかのよう、長々と現在のICRPの状況を繰り返し時間を食う。
- 永井さんが「原発事故も含めて正当化できないのではないか」と質問したのはかわされ気味で、座長が時間で強制終了。
- 佐々木氏に聞いたかったこと

最近の疫学研究からもうLNTが「仮定」ではいられないこと

3つの被ばく状況、参考レベル導入の経緯

当時のクラーク委員長による「個人の尊重」Egalitarianと

ICRP倫理「尊厳」や人権の関係

日本保健物理学会 第 56 回大会

1日目 11月9日 特別セッション

「次世代層への新しい放射線教育の挑戦と実践」

座長：飯本武志（東大）

授業と課外活動における放射線教育の意義とその実践

慶應義塾大学 井上浩義

先端科学と中等教育の融合に基づく人材育成戦略

京都大学 中村秀仁

放射線でプラスチック（PET）が光る研究

放射線について学んでいると私立大阪高校の高校生がポスター発表

「放射線が危険という固定観念がなくなる」

放射線のリスクについては一切話さない。

瀬川のポスター発表

放射線被ばくがどんなに少ない量でも害があるので、自然放射線や必要な医療以外で余計な被ばくをさせるのは国際人権や環境正義にかなわない。医療で、そもそも被ばくを伴う行為が必要か、被ばくをしない、少なくする方策がないかと問う論点は、核関連施設でも事故の時にも放射性廃棄物に対しても共通する。

- 福島医大のたぶんエコチルをやっている女性のかた2人が写真を撮りに来たので、ポスターの説明をして手帳を進呈。
- 隣で韓国とコロンビアからCTの被ばく線量の発表しているかたに手帳と日本の線量記録について話して、やはりそれぞれに手帳を進呈。
- 他にポスターの下にクリアファイルを貼って手帳を入れておいたら、5部取っていかれる。
- 大阪高校の高校生と先生と合わせて3部手帳を進呈。

ポスター会場にて

- ポスター会場に**ICRP**の人が来たところにはほとんど出くわさず。
甲斐**ICRP**主委員（放射線審議会会長）が「読んだ」と。
- 福島県の甲状腺がんの染色体異常についての福島医大、坂井ポスターに安村県民健康管理センター長は「共著者ではない」と逃げる。
- 本間 元**ICRP**委員（規制庁職員）とシミュレーションと緊急時避難、**UNSCEAR2020/21**の線量過小評価について話した。

参考：日本学術会議 見解 9月26日 より強靱な原子力災害対策に向けたアカデミアからの提案—放射性物質拡散予測の積極的な利活用を推進すべき時期に来たと考えます

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-25-k230926-17.pdf>

11月13日にオンラインでやった
産総研主催**ICRP**セミナーの最後に紹介

来年**2024**年は、**11月21日-28日**に

福島（浪江町？）の

エフレイ（福島国際研究教育機構）で

第4委員会と主委員会

11月25日が公開シンポ